

第 212 回 暮らしの SDGs 学習会 議事録

1. **出席者** (敬称略) 増永、吉永、横田、難波、大塚、前崎、黒島、古山、大河原、平手、筒井 (記)
2. **日時** 2025 年 7 月 11 日 (金) 13:30 ~ 15:00
3. **場所** 生涯学習センター 3 階 大会議室
4. **テーマ** 世界のエネルギー事情等について
5. **説明** 筒井 義憲 (OBN 会員 学習会担当)
6. **内容** グラフ、図等を示して、以下のような説明がありました。
 - * 世界のエネルギー消費量 (一次エネルギー) は、経済成長とともに増加し、50 年で約 2 倍になっています。OECD 諸国のグラフがマイナスになっていますが、全体に占める割合が減っているということで、量的には約 1 割増加です。
 - * 主要国のエネルギー自給率が高いところは、ノルウェーが北海油田、オーストラリアが石炭と天然ガス、カナダが原油と天然ガス、アメリカが原油と天然ガスがあるからです。また、3 位、6 位などは、コロンビア、インドネシアなどの原油や天然ガスの産地です。
 - * 電源別のエネルギー消費量の推移では、石炭がトップで増加、同様にガスも増加、自然エネルギーは急増していますが石炭には届いていません。
 - * 世界の主要 18 カ国の再生可能エネルギーの割合は、ブラジルが水力発電 (アマゾン川) が多くトップ、エネルギー自給率でも 86% でトップ 10 に入っています。スウェーデン、デンマークが続いています。アメリカ、日本、韓国は低くなっています。
 - * ドイツ、イギリスは化石燃料での発電からのシフトに努力して現在の姿になっています。
 - * ノルウェーは、石油・天然ガスを生産 (2022 年の合計生産量は、約 14 億バレル。(ノルウェー石油エネルギー省))、欧州諸国を中心に輸出しており、輸出の約 74% を占めています。豊富な水資源を利用して国内電力の 88% は水力発電によるものです。
 - * 北欧諸国 (特にデンマーク、ノルウェー、アイスランド) は再エネ比率が高く、EU の中での比較でも高くなっています。
 - * 特に、デンマークと日本の電力源の構成を比較すると、デンマークが、この 20 年で風力発電を大幅に増加しており、再エネ率が非常に高くなっています。
 - * グラフで確認すると、日本の一次エネルギー自給率が他国と比較し非常に低いことが分かります。英国が近年増加しているのは再エネに力を入れているからです。フランスと日本は、化石燃料は自国では僅かしかありません。
 - * 日本は、パリ協定と関連して『2050 年にカーボンニュートラル』を宣言しています。その実現のために第 7 次エネルギー基本計画を作成しました。2040 年には、エネルギー自給率を 3~4 割程度にし、電源構成は、4~5 割程度を再エネ、2 割程度を原子力、3~4 割程度を火力とし、温室効果ガスを 2013 年比で 73% 削減するというもので、実現が厳しい目標と思われます。

<次回予定>

8 月の暮らしの SDGs 学習会は、第 2 回市民環境講座の直前で、作業等の事前練習のため休みます。そのため、次回は 9 月 12 日 (金) の予定で、内容は検討中です。